

<b>ジメテナミドP乳剤</b> <b>フィールドスター P 乳剤</b>	<b>取扱メーカー：</b> BASF*, 日本曹達*  <b>原体メーカー：</b> BASF
<b>成分：</b> ジメテナミドP〔酸アミド系〕……………64.0% <b>その他 PRTR 該当成分：</b> ナフタレン〔PRTR・I 種〕……………≤2%	<b>性状：</b> 暗褐色可乳化油状液体  <b>毒性：</b> 普通物 <b>消防法：</b> 第4類・第3石油類(水溶性)・危険等級Ⅲ

### 【品目特性】……………

- 非ホルモン・吸収移行型の除草剤で雑草の発芽時に幼芽・幼根から吸収されタンパク質の生合成を阻害し、生育を抑える土壌処理型除草剤である。
- 一年生イネ科雑草を始め、カヤツリグサ・ヒユ類・スベリヒユ・ハコベなどの主要畑地一年生雑草に対して高い除草効果を示す。
- 土壌中で長い持続効果を示す。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

### 【使用上のポイント】……………

- 必ず雑草発生前に均一に散布する。
- 土壌表面が湿っている時に散布するとより効果的である。
- 土壌中の移行性が比較的大きいので、砂土での使用はさける。

### 【薬効・薬害等の注意】……………

- アカザ科、タデ科及びアブラナ科など一部広葉雑草には効果が劣るので注意する。
- 適用作物（きゃべつ）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。
- えだまめ、だいず、飼料用とうもろこし、とうもろこし及び直播栽培のてんさいに使用する場合には、砕土、整地は丁寧に行い、種子が露出ないように覆土はできるだけ丁寧に行い、覆土深を2～3cm以上とする。
- 直播栽培のてんさいに使用する場合には、出芽揃期以外では生育抑制等の薬害を生じる場合があるので処理時期や薬量を厳守する。
- キャベツに使用する場合には、初期生育抑制を生じることがあるので、薬量を厳守する。

### 【安全対策上の注意】……………

- 自動車や壁などの塗装面に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意する。
- カブレやすい体質の人は取扱いに十分注意する。



# 【適用と使用方法】 .....

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り使用量		本剤の 使用回数	使用 方法	ジメテナミド及びジ メテナミド P を含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
キ ャ ベ ツ	一年生雑草 (アカザ科・ アブラナ科・ タデ科を除く)	定植後 (雑草発生前) 但し 定植後10日まで	50～ 75 ml	100 ℓ	1 回	全面 土壌 散布	1 回
ブロッコリー		定植後 (雑草発生前) 但し 収穫30日前まで					
た ま ね ぎ		定植後 (雑草発生前) 但し 定植後30日まで	75～ 120 ml				
え だ ま め だ い ず		は種後出芽前 (雑草発生前)		70～ 150 ℓ			
とうもろこし		一年生イネ科雑草		とうもろこし 出芽直前～2 葉期 (イネ科雑草 2 葉期まで)			
飼料用とうもろこし	一年生雑草 (アカザ科・ アブラナ科・ タデ科を除く)	は種後出芽前 (雑草発生前)					
	一年生イネ科雑草	とうもろこし 出芽直前～2 葉期 (イネ科雑草 2 葉期まで)					
ばれいしょ	一年生雑草 (アカザ科・ アブラナ科・ タデ科を除く)	植付後萌芽前 (雑草発生前)	70～ 150 ℓ	2 回以内		2 回以内	
て ん さ い (移植栽培)		定植後又は中耕後 雑草発生前 但し 収穫45日前まで	70～ 100 ℓ				
て ん さ い (直播栽培)	一年生イネ科雑草	出芽摘期 (雑草発生前)	75 ml				100 ℓ